江戸時代～明治時代

鴻巣市内には、江戸時代の神殿狛犬と参道狛犬が各1対、明治時代の参道狛犬が１対ある。このうち、神殿狛犬は、鴻巣市の指定文化財である。

⑦

背面から見ると、座り方の違いがよく分かる。

場　所：西福寺（袋）／製作年：宝永7年（1710））／材　質：寄木造（ケヤキ）

鴻巣市内最古・唯一の神殿狛犬。木造で表面は胡粉等が塗布される。阿吽が左右逆になる。対であるが、髪型、胸板厚さや脚の太さ、座り姿勢等に違いがある。通常は非公開である。

場　所：氷川神社（滝馬室）
製作年：天保11年（1840）
材　質：安山岩

石像としては市内最古。犬に似た造形が愛らしい。

場　所：伊奈利神社（榎戸）
製作年：明治23年（1890）
材　質：安山岩

市内唯一の明治の狛犬。破損が激しく、台座に下半身と前足の一部が残る。

大正～昭和 －石工の活躍－

大正～昭和の狛犬は、その多くに製作者（石工）の名が刻まれている。製作者別に作品の変遷を眺めてみたい。

◆群の名を持つ石工たち

清水群學、伊藤群鴻、柿沼群保、柿沼群鳳という、いずれも名前に「群」の字を持つ石工たちがいる。作品数も多く、今回紹介する狛犬の約半数を占める。このうち、伊藤群鴻は伊藤石材・鴻巣石材、柿沼群保・柿沼群鳳は柿沼石材の先祖にあたる。柿沼石材によれば、柿沼群保と柿沼群鳳は同一人物（柿沼繁蔵）の可能性が高いという。柿沼石材には、奉納されなかった柿沼繁蔵作の狛犬１対が非常に良好な状態で保管されている。清水群學については、詳細が不明であるが、群の字を持つことは偶然とは考えにくく、伊藤群鴻、柿沼群保、柿沼群鳳と何らかの関係を持つ石工であろう。

場　所：久伊豆神社（郷地）
製作者：清水群學
製作年：大正6年（1917）
材　質：凝灰岩

やや中腰になる座り型と筋肉質な前脚が特徴的。

場　所：生出塚神社（天神）
製作者：伊藤群鴻
製作年：大正10年（1921）
材　質：安山岩

伊藤群鴻の作品としては市内最古。啊像が毬、吽蔵が子獅子に前脚を置く。

場　所：久伊豆神社（笠原）
製作者：清水群學
製作年：大正7年（1918）
材　質：安山岩

両方とも獅子に前脚を乗せる。

場　所：勝願寺（本町）
製作者：伊藤群鴻
製作年：大正14年（1925）
材　質：安山岩

前脚を子獅子に置いているようで置いていない吽像に注目。

大正～昭和 －石工の活躍－

場　所：鴻神社（本宮町）
製作者：伊藤群鴻
製作年：昭和3年（1928）
材　質：安山岩

直線的なデザインが特徴的である。

場　所：八幡神社（人形町）
製作者：伊藤群鴻
製作年：昭和3年（1928）
材　質：安山岩

同年製作の鴻神社の像に似ている。

場　所：天満宮（境）
製作者：伊藤群鴻
製作年：昭和9年（1934）
材　質：安山岩

欠損しているが、吽像の足下には子獅子が居たと思われる。

場　所：久伊豆神社（屈巣）
製作者：伊藤群鴻
製作年：昭和15年（1940）
材　質：花崗岩

伊藤群鴻の中ではデザインの異なる作品

場　所：久伊豆神社（北根）
製作者：伊藤群鴻
製作年：昭和16年（1941）
材　質：安山岩

阿吽や子獅子と毬の組合せが一連の作品とは逆になっている。

場　所：氷川神社（滝馬室）
製作者：柿沼群保
製作年：昭和9年（1934）
材　質：安山岩

吽像の前脚にじゃれつく子獅子が愛らしい。

場　所：野宮神社（原馬室）
製作者：柿沼群保
製作年：昭和11年（1936）
材　質：安山岩

氷川神社（滝馬室）と比べると、こちらは子獅子がお行儀良く座っている。

場　所：愛宕神社（原馬室）
製作者：柿沼群鳳
製作年：昭和14年（1917）
材　質：安山岩

中腰になる造形は、どことなく久伊豆神社（郷地）に似ている。

場　所：八幡神社（鎌塚）
製作者：柿沼群鳳
製作年：昭和16年（1941）
材　質：安山岩

子獅子が身構えていて、親がそれを押さえているようにも見える。

場　所：宮登神社（宮前）
製作者：柿沼群鳳
製作年：昭和27年（1952）
材　質：安山岩

群の名を持つ石工では最後の作品。子獅子と毬の組合せが逆になる。